

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成19年7月(2007年) No.499

全国縦断、地方での映写会の課題

会長 合原一夫

この6月24日(日)大阪市立中央図書館での第21回日本を縦断する映像発表会は、雨の中観客数が懸念されましたが、まずまずの入場者でほっといたしました。上映も関さんの明るい投影機と藤原さんの素晴らしい音響設備と総合技術により、観客の皆様にはご満足のいく映像発表会ではなかったかと自負しております。

一方、大阪に先立ち6月10日福岡で行われた日本縦断発表会では、川上事務局長の体調不良で私が代わりに挨拶を仰せつかり、会場にかけつけたのですが、本部から送られてきたDV標準テープがカム方式(業務用)で来ているので会場備え付け中のDVデッキでは再生できず、急遽ダビング中とのあわただしい雰囲気でした。又、作品内容も見ていないとのことで、予定外の司会も務めることに。ダビングが間に合わないので開会を少し遅らせ、1部をダビング終わった時点で開会、1部上映中に次の2部のを2本に分けてダビング、なんとか上映を無事終えることが出来ました。

これら地方での発表会は、会場備え付けの機材を使うことや、カム方式に対応しきれていない関係者、ましてハイビジョン上映など、地方での発表会ではまだまだ課題が多いなあ、というのが実感でした。

東京での東京映像の発表会でもハイビジョン作品が途中に入っていましたが、プロジェクターの明るさは抜群の講演会等で使うプレゼンテーション用に開発されたものだったので、4対3からハイビジョンへの切替に手間取ったことがありました(映像用プロジェクターは切替えはスムーズ)。

この点、大阪の発表会は万事うまくいっており、上映環境は日本一ではないかと思えます。全国から注目される存在は今後も続いていくことでしょう。

7月例会と撮影会コンのお知らせ

7月例会は28日(第4土曜)午後6時から、また垂井撮影会コンテストは同日13時から開催します。撮影会未参加の方もどうぞ参加して下さい。撮影会に行かれた方は作品をお持ち下さい。会場はいつものOCATビル4階難波市民学習センターです。

来月は500号記念

～何か原稿をお寄せ下さい～

OMCニュースがこの8月で500号を迎えます。先輩たちが築き上げてきたわがクラブの遺産です。50号ずつ、或いは100号ずつ区切って再見してみますと、その時代の背景が伺える気がします。会員諸氏におかれましても、入会当時の印象や雰囲気、現在の心境など、可也り変化が見られると思います。これら皆さんからの投稿をお待ちしています。できれば、7月例会時にお持ち下されれば有難いです。(同時に広報宛にメール添付で送信をお願いします。)

■幹事会のお知らせ

OMC映像発表会のプログラム選定会議を8月3日(金曜日)18時30分より、難波市民学習センター第1会議室にて行います。幹事の方はお忘れなくお集まり下さい。

■作品のスタートは黒リードで

5月号も書きましたが、例会作品を見ているとまだカラーバーなど入れておられる方が見受けられます。ハイビジョン作品は、DVテープのように1駒単位での駒送りが出来ず、公開映写会のときなど、適正なスタートに上映係の藤原世話役は余分な神経を使っておられます。これからは、作品スタートの前には、黒リード20秒分いれてくださるようお願いします。例会作品でもそれに慣れるようにしてください。

6月例会のレポート

6月例会は23日土曜 18時から難波市民学習センターにて開催。梅雨どきで雨が心配されましたが当日は曇天で降雨はなし。会員さんの出足もよく何と31名の出席という新年例会以来の大入り。作品もハイビジョンを中心に18本が出品されたが司会有村氏のご奮闘にも拘わらず、16本を上映し終わったところで時間切れ。残り2本は出品者のご了解を得て来月まわしとなりました。うれしい悲鳴で、こんなクラブは全国を見回してもOMCとOVC位のものでしょう。

今月の司会は有村氏、書記、合原氏、機材担当、増池、河合、江村の3氏、受付兼照明係は渡辺、宮崎の両氏の担当で進行。

■出席者：有村、天草、井上、江村、岡本、奥、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、鉄具、西井、錦、西村、華岡、藤原、前田、増池、松本、宮崎、森口、森、森下、森田、安居、山本、吉岡、渡辺の31氏で30台の大台を越す盛会でした。

■上映作品(今月の講評は合原会長です)

1. 宮本武蔵の道を歩く

紙本 勝さん 14分25秒

先月発表された「宮本武蔵の道を行く」の続編のような作品。紙本さんの宮本武蔵への想いと執念のようなものを感じます。よく調べ、丹念に全国を訪ねて記念碑や文獻、墨絵や書、像等々、如何に多くの足跡があり、又あり過ぎてどれが真実か判らなくなったというあたり、後の世の人が剣豪宮本武蔵をドラマ化し伝説化していったかを暗示させてくれます。それにしてもよくまあ全国を撮り歩かれたものと脱帽です。

2. みこしに魅せられた男たち

西井 学さん 13分50秒

5月例会で「松尾大社神幸祭」という作品を発表されましたが、今回はナレーションを入れて纏め直した作品の由。こういう作品では解説がないと判りづらいとの助言を基にナレーションが入り、祭の由来やら様子が理解し易くなっていました。

どうやら祭りは「神幸祭」があつて3週間後に神様がお帰りになる「還幸祭」なるものの2つの祭から成り立っている長い日数をかけた祭のようです。神幸祭が終わって黒フェードで終りの字が出たので、作品が終わったなと思ったのですが、それが還幸祭との区切りだったので、ここは作品としては連続しているの、スライドや頁めくり等のエフェクトで処理した方が誤解を招かずに良いと思います。

3. 山鹿灯籠

吉岡貞夫さん 10分00秒

3年前、同志4人で撮りに行き、先に同志が発表してしまったので、3年寝かせて作品を作り持参したとのまずは作者の弁。

作品はオーソドックスに纏められており安心して拝見しました。夜のシーンがメインなのに明るく撮れていました。

ただ感想としては、4人踊りの会場での

映像がとても幽玄な雰囲気を持たせていたので、現実的な街中での美人達の踊りを先に出して千人踊りをラストにもってきて、ヨヘホヨヘホでロマンの世界へ引きづり込んでから終わった方が良かったのではないかと思います。

4. 京花灯路

天草 稔さん 7分50秒

3年前に撮影されたという京都丸山公園 八阪神社、知恩院、高台寺あたりの夜の花灯路、光のショー等、たっぷりと描いておられます。トップシーンに琴の合奏シーンがあり全編のBGMでラストにもう一度合奏シーンが出て終わります。この音処理は成功していると思います。夜景だけに少々暗い画面が多いのは残念です。カメラの種類によってはもっと明るく撮れるかも知れません。天草さんは今年入会されて2作目の作品ですが、確かな腕前とお見受けしました。

5. 梅 (W)

増池 茂さん 6分15秒

大阪天満宮にカメラを据えて梅を中心に他のインサートも採り入れてじっくりと纏めておられます。最後はみぞれ混じりの雪に見舞われた映像は見事でした。前半やや露出オーバーの箇所があり、気にしていましたが、雪が降り出してからは、そちらに気をとられて気になった前半を忘れてしまうほどでした。増池さん、確かな撮影技術をマスターされたな、という思いです。

6. 磯清水 (W)

森口基正さん 8分40秒

天橋立海岸に、日本名水100選にも選ばれている清水が湧き出る井戸が古くからあるそうです。そういう、ほとんど人の知らないところを訪ねて名水紀行に取組んでおられる森口さんならではの作品です。海岸近くで、塩分のない名水が湧き出ているという不思議さが作品の上からよく伝わってきます。井戸のつるべからぶらさがったバケツを当初、木のバケツにしたらずぐに盗難に合い怒った守っている人が井戸に蓋をしてしまい、撮影不可。今回ブリキのバケツでようやく再開されたので2年がかりの作品とか。

7. 春・余部 (HDV)

江村一郎さん 6分00秒

余部鉄橋の架け替え工事がこの春先から始まりましたが、これは工事着工直前の4月に撮影されたもの。トップシーンはトンネル出口の直上の山にカメラを構えて、トンネルを抜け出て橋の向うの余部駅へ向う列車を長いショットで撮られています。江村作品は短いカットの積み重ねが多いだけに、あの長いカットはとても印象に残りました。むしろ、これはラストカットにして架け替えらるとこういう風景は見られないなあ、という感慨を味わいながら終りに持っていたら見終わった後によけいに印象に残るのではないかと、思ったりしました。映像作りは確かな江村さんのことですから言うことはないのですが、のどかな春よりやはり冬の余部が魅力がありますねえ。もっとも工事前の映像として貴重な記録になるかも知れませんが。

8. 悠遊一日紀行 (HDV)

井上勝彦さん 9分50秒

ソニーのハイビジョンカメラ HC-3 を2台、お手製のスタビライザーに載せたり、或いは三脚に固定したりして撮影されたという3D映像の左側とか。今回は、めがね無しで見られるようにされたものをお持ちでしたが、やはり本来のHDVのシャープさは見られませんでした。2台の立体映像を撮影、編集される技術はやはり大したものだと感じ入りました。内容は前月同様、阪急電車沿線シリーズ、今回は神戸三ノ宮編でした。ナレーションの入る部分はBGMのレベルを思い切って下げようとしたら、もっと声が聞き取り易くなります。

9. お味はいかが (HDV)

奥 宏さん 5分17秒

今度のは料理を作る人の楽しみを描く作品かと思っていましたが、動物たちの食事をする様子を天王寺動物園で撮り集めたものでした。動物園での作品では、ねらいをどこに絞るかが大切ですが、これは「食事」にテーマを絞られていますので、これはこれで成功かと思えます。こういう口元の動く被写体であれば江村流に口元の超アップをねらってみても面白いかも知れません。

10. 京においでやす (HDV)

渡辺雄史さん 9分30秒

先に上映した天草さんの「京花灯路」と同じく 2007 年春の東山花灯路イベントのひとつです。ですが、この作品は着物おこしとしての舞台での踊りが中心で「おこしやす」の歌が入った曲に合わせて踊っている目の保養にもなった催しだったようです。踊りの合間に京の風景が挿入されていて単純さを救っています。もっとイメージカットを増やしてもよかったようにも思いました。

11. 蛇穴(さらぎ)の汁かけ祭 (HDV)

河合源七郎さん 12分12秒

葛城山のふもとにある小さな村で、蛇穴と書いて「さらぎ」と呼ぶ、という変わった名前の土地。そこにわらで作った長さ凡そ 10 メートル程の蛇を主役に、神事や曳き回しなど、成程名の通り変わった珍しいお祭りです。赤い目と舌をもつユーモラスな蛇を子供達も交えて村中を曳き歩く姿は、素朴な村祭として貴重な伝統行事のように思いました。祭の由来なども判り易く解説されており、河合さんらしい奥行きのある作品に仕上がっていました。ちなみにこれはキャノンの HV20 という新しい型のカメラで撮られたとの事で画面のシャープさはさすがキャノンの HDV カメラだと思えました。

12. 初夏のいざない (HDV)

進藤信男さん 6分45秒

サブタイトルとして「かや葺の里」とありました。ご存知京都の美山で、田植後の田園風景です。おたまじゃくし等、郷愁豊かに描いた小品ですが、かや葺きの家のロング場面など類似カットが少し多過ぎたように思います。山場となるポイントが無いのも惜しい気がします。思い切って5分位に切りつめたらいかがでしょうか。

13. くも合戦 (HDV)

山口幸代さん 8分50秒

鹿児島山の手山口さん、今年初めての出品は何とハイビジョン作品。とうとう、山口幸代さんまでが(失礼)ハイビジョンをやるような時代になったかと、改めて OMC の進歩の目ざましさに驚いております。

作品も大変風変りな昆虫の「くも」の戦

いという伝統行事で、最後まで楽しく、また惹きつけられて拝見しました。何でも無形文化財ということで、行事役のたまたまのおかしさやユーモラスなアナウンスの声やうまく撮り入れられています。それにしてもあの小さなクモをアップで撮影するのは大変だったろうと思いました。

14. 琉球村(仮編集) (HDV)

上総修一郎さん 8分30秒

まだ BGM を入れていない未完成作品ということでしたが、ナレーションが入っていて一応判り易く纏めてあります。沖縄の島づたいに旅をされた一環として、石垣島での映像です。昔ながらのさとうきびのしぼり(牛によるしぼり)、機織り、蛇味線など文化財に指定された生活様式を撮られています。この沖縄旅行は 10 日間ほど続いたということで、旅の続編が待たれます。

15. 新緑と紅葉の五色沼 (HDV)

有村 博さん 8分52秒

東京の映写会でナレーションの入ったものを出品してほしいと云われて、元々ノンナレで作っていた裏磐梯の五色沼の作品に、ナレーションを入れられた由。五色沼に行ったことがない人にはナレーションがあった方が理解しやすいし、これはこれで良かったのではないかと思います。それにしても美しい映像でした。

16. 天までとどけ この祈り (HDV)

山本正夢さん 9分10秒

まだ観光客の少ないチベットの美しい映像です。経文が書かれている布、タルチャがはためいているトップシーンは印象的。祈りながら前進する老人(五体投地)、経文を刻んだ石を積み上げた山、マニ車を廻す旅人、チベット教の神像、子供の僧侶、祈る人々等々、チベットらしい光景が次々に出てきて見る人を惹きつけます。海拔凡そ 4000 メートルという高原の聖地。ハイビジョンの映像と共に魅力一杯の山本作品でした。

ここで 21 時を過ぎてしまい、あと前田さんの「余部冬景色」と森田さんの「歩行天国」が残念ながら来月回しとなり、いつものように喫茶組と居酒屋組に分かれて二次会を楽しみました。